

2023年5月25日

株式会社ADEKA

千葉工場 最先端フォトレジスト向け光酸発生剤 生産設備が竣工

～EUV向け製品の生産能力を2倍以上に増強する設備が8月に稼働予定～

株式会社ADEKA（代表取締役社長：城詰 秀尊）は、千葉工場で建設中であったEUV（極端紫外線）フォトレジスト向け光酸発生剤の生産設備が完成し、竣工式を執り行いました。先端材料の需要が高まっていることから、2023年8月より稼働予定です。

5G通信の拡大やAI、メタバースをはじめとした高度ICT社会の実現に欠かせない半導体は、情報処理の高速化や消費電力の低減を背景に微細化による高集積化が進んでいます。なかでもデバイスの頭脳を担うロジック半導体は微細化が急激に進行しており、新規材料ニーズが高まっています。

ADEKAは半導体の微細化に欠かせない先端材料の提供を通じて、情報・電子化学品の事業拡大を進めてきました。ロジック半導体向けでは、先端リソグラフィ工程で使用されるフォトレジスト向け光酸発生剤「アデカアークルズ」シリーズは、当社の強みである光制御技術とメタル管理技術で世界トップクラスの性能を有しており、販売が伸長しています。微細化進行によるEUV露光向けフォトレジストの需要増加を見据え2021年8月に設備投資を決定し、建設を進めていました。

竣工した生産設備では、生産能力が従来の2倍以上となります。また、新たなプロセス技術を投入したほか、最先端設備の導入で品質管理能力を高め、1ppb未満の低メタル管理を実現します。さらに、次世代向け新製品を想定した生産設備も導入しました。

ADEKAグループは、主力製品である半導体メモリ向け材料の拡大はもとより、ロジック半導体向けへと領域拡大を推し進め、世界トップの半導体材料メーカーを目指してまいります。



▲ 千葉工場で竣工した生産設備（外観）

〈次ページに続く〉

■ 概 要

所在地	(株)ADEKA 千葉工場 (千葉県袖ヶ浦市北袖3-1)
投資金額	約27億円
延床面積	1,698平方メートル (2020年度時点: 280平方メートル)
能力増強	従来比2倍以上
スケジュール	稼働: 2023年8月 (予定)

補足1: ADEKAの光酸発生剤「アデカアークルズ」シリーズについて

当製品は半導体リソグラフィ工程で微細なパターンを形成するため、特定の光や電子線に反応して酸を発生させるフォトレジストの開始剤です。最先端のリソグラフィ工程であるEUV露光で使用されるフォトレジストに欠かせない製品として、さらなる販売の拡大を見込んでいます。

補足2: ADEKA 情報・電子化学品事業について

半導体分野やディスプレイ分野で高度ICT社会の発展に欠かせない先端製品を数多く提供しており、先端半導体メモリ向け高誘電材料「アデカオルセラ」シリーズは世界 No.1 シェア^{※1}を有しています。ADEKAグループ中期経営計画『ADX 2023』(2021-2023年度)では、「次世代ICT分野」を重要分野の一つと位置付け、飛躍的な規模拡大を目指しています。

『ADX 2023』では、情報・電子化学品事業における設備投資の計画値を95億円(3カ年累計)^{※2}としておりましたが、先端半導体材料を中心に積極投資した結果、2022年度末時点の投資額は当初計画値の約120%(認可ベース含む)となっています。

〈情報・電子化学品事業の主な設備投資〉

- ・ 先端半導体メモリ向け高誘電材料 生産設備増強 (21億円/韓国: 2023年)
- ・ アデカコリア研究開発センター 拡大移転 (13億円/韓国: 2023年)
- ・ 先端半導体メモリ向け高誘電材料 生産能力増強 (23億円/韓国: 2022年)
- ・ 先端ロジック半導体向け材料 新プラント建設 (25億円/台湾: 2022年)
- ・ 最先端フォトレジスト向け光酸発生剤 生産能力増強 (27億円/日本: 2021年)

※1 富士キメラ総研「2020年 半導体材料市場の現状と将来展望」より。

※2 ADEKAグループ全体の設備投資目標値は500億円/3カ年累計。カーボンニュートラル実現に向けた環境投資を含む。

以 上

■ 本リリースについてのお問い合わせ先

株式会社ADEKA 法務・広報部 総務・広報グループ

Tel:03-4455-2803/E-mail: somu@adeka.co.jp